

「山中 誠さん」矢野賞受賞

井笠農業普及指導センター

平成 22 年度（第 57 回）の矢野賞に笠岡市の山中誠さんが選ばれ、さる、10 月 22 日、第一生命東京本社にて贈呈されました。

山中さんは、平成 7 年 1 月に笠岡湾干拓地へ入植して以来、計画的な増頭により現在では 500 頭を超える酪農メガファームにまで経営を拡大し、高い生産技術と経営管理能力で生乳生産量、飼育頭数ともに県下最大級を誇っています。

企業的酪農経営への転換

父である治さんが兵庫県明石市で酪農経営を行っていましたが、都市の混住化と誠さんの就農を契機に更に経営を拡大するため、牧場移転と同時に干拓地へ家族そろって入植されました。

平成 15 年には、法人化経営（有限会社山中牧場）への移行に伴い誠さんが代表取締役就任し、より強い経営体へと発展させると同時に、家族内での役割分担や給与・休日体系の明確化により意欲と生きがいのある酪農経営を実践しています。

高品質生産への取り組み

生乳の品質管理については、牛群検定成績を活用し、コンピューターによる個体管理の実施、疾病牛の早期発見早期治療に努めています。

その結果、乳質については、入植後毎年連続して良質乳生産農場として表彰（おかやま酪農

業協同組合びなん酪農組合）されており、平成 21 年度は、最優秀賞を受賞しています。

新技術等の普及推進

高い生産性を維持するため、特に干拓地特有の夏季の暑熱対策として、乳牛が自由に利用できる「牛用シャワー室」を高泌乳牛群の牛舎内に設置し大きな効果を得ており、その技術は地域内酪農家へ波及しました。

ふん尿処理に関しては、たい肥の有効利用とコスト削減のために、オガクズ等の代替として、たい肥を敷料として再利用する施設と乾燥技術を導入し、現在、敷料を 100%たい肥で代用しています。

また、近年牛舎内でのサシバエの発生が問題となり、干拓地内でいち早く防止ネットを導入するなど、地域の技術モデル農家としての役割も果たしています。

新農業経営者クラブでの活躍

笠岡市新農業経営者クラブ「潮会」へ入植と同時に加わり、消費者交流や調査研究活動等に積極的に取り組むと同時に多くの仲間と幅広いネットワークを構築しています。

このように、高い技術に裏付けされた企業的な経営感覚は、同年代の青年農業者の大きな目標となっており、干拓地の農業に新風を吹き込む事例として矢野賞を受賞しました。



山中さんご夫婦



徹底した暑熱対策